

別記様式(第5条関係)

会議録

会議の名称	第17回登米市環境審議会
開催日時	平成30年11月27日(火) 午後2時開会、午後3時05分閉会
開催場所	登米市迫庁舎 2階 大会議室
議長(会長)の氏名	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 総括研究員 嶋田哲郎
出席者(委員)の氏名	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 総括研究員 嶋田哲郎【会長】 登米市環境教育リーダー 高橋由紀子【副会長】 国立大学法人宮城教育大学 教授 齊藤千映美 宮城北部流域森林・林業活性化センター登米支部 支部長 芳賀稔 登米市公衆衛生組合連合会 会長 佐々木衛 登米市地域婦人団体連絡協議会 会長 佐藤ヒサ子 登米ブロック商工会女性部連絡協議会 会長 只野好子 登米市環境市民会議 会長 佐藤博 宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所林業振興部長 三浦孝則 市民公募 及川由美子 市民公募 佐藤謙一 市民公募 佐々木寛之
欠席者(委員)の氏名	みやぎ登米農業協同組合 代表理事専務 佐野和夫 登米市食生活改善推進員協議会 会長 佐藤律子 宮城県東部保健福祉事務所技術副所長兼環境衛生部長 石川政彦 登米市立石越小学校教諭 及川俊弘
事務局職員職氏名	市民生活部 部長 佐藤浩 市民生活部 次長 加藤均 市民生活部環境課 課長 浅野之春 市民生活部環境課 課長補佐兼係長 大宮兵治 市民生活部環境課 主幹兼環境政策係長 菅原直樹 市民生活部環境課 生活環境係長 浅井顕裕 市民生活部環境課 環境政策係 主査 金澤直子 市民生活部環境課 環境政策係 主事 菊地純平

議題	【議事】 1 第二次登米市環境基本計画の進捗状況について 2 その他
会議結果	別添のとおり
会議経過	別添のとおり
会議資料	資料1 第二次登米市環境基本計画について(概要) 資料2 第二次登米市環境基本計画平成29年度進捗状況

発言者	議題・発言・結果
【1 開会】	
事務局	ただ今より、第17回 登米市環境審議会を開会いたします。 はじめに辞令交付を行ないます。
【2 辞令交付】	
	(市長より出席の委員に辞令を交付)
【3 挨拶】	
市長	<p>登米市環境審議会であります。環境基本法に基づき、環境の保全及び創造に関しまして調査・審議するために設置しているものでございます。</p> <p>久しく地球温暖化が言われているところであります。今年の夏は特に、全国各地におきまして猛暑が続く一方、西日本から東海地方を中心とした記録的な大雨が発生するなど、異常気象が頻発しており、こうした状況に対して地球規模での取り組みが必要とされているところであります。</p> <p>こうした状況のもと、本市におきましては、地球温暖化対策、自然環境の保全対策、そして生活環境対策など、環境基本計画を策定し、各種環境保全の取り組みを進めてまいりました。</p> <p>本日は、これまでに推進してまいりました、第二次環境基本計画の進捗状況についてご審議をいただきます。</p> <p>委員の皆様からは、これまでの取り組みに対して、様々な視点から、ご忌憚のないご意見をいただきながら、環境基本計画において位置づけております、本市の将来像「あふれる笑顔、豊かな自然、住みたいまち とめ」を目指し、市民の皆様が暮らしやすい地域社会の実現に向け取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>本日は、どうぞ、よろしくお願いいたします。</p>
【4 委員紹介】	
事務局	委員の皆様をご紹介いたします。 ～各委員の紹介～
【5 会長及び副会長の互選】	
事務局	<p>会長及び副会長の互選ですが、登米市環境基本条例第34条第7項の規定に基づきまして、委員の互選によって定めるとしてありますが、事務局案といたしまして、会長を嶋田委員に、副会長を高橋委員にお願いしたいと考えております。皆様いかがでしょうか。</p> <p>～意義無し～</p> <p>それでは、会長には嶋田委員、副会長を高橋委員にお願いいたします。</p> <p>ここで会長に就任されました嶋田会長より、ご挨拶をいただきたいと思っております。</p>
会長	<p>今年は大きなイベントがあった。登米市の隣の南三陸町で志津川湾がラムサールに加わった。これで宮城県では4か所目になる。1つの県で4か所登録されるのは珍しく、1番多いのが沖縄県の5か所、次に宮城県の4か所になる。日本でも大変珍しいラムサール条約の登録湿地が登米市の周辺に広がっており、いかにこの地域が、水鳥をはじめとした生物多様性豊かな場所であるかが証明されており、環境に対する意識が高まっている。本日は、登米市環境基本計画の進捗状況を審議する大変重要な議題であるので、皆様方からの慎重なご審議等をいただければと思う。</p>

【6 議事】	
会長	<p>それでは議事に入る。</p> <p>はじめに、会議録署名人を2名指名する。</p> <p>三浦孝則委員と及川由美子委員に、会議録署名人をお願いする。</p> <p>それでは「(1)第二次登米市環境基本計画の進捗状況について」を事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	(配布資料1・2に基づき説明)
委員	<p>外来生物駆除作業を実施した平筒沼について、釣り大会でブラックバスの駆除を行ったようであるが、この取組では外来魚の除去作業としては僅かなものである。ブラックバスが大きくなる前に、産卵の時期に生態系を利用して、コイやヘラブナを放流して、産卵時に卵を駆除するような取組を行った方がより駆除が円滑の行われると思われる。ブラックバスは浅瀬に産卵し、コイやヘラブナは浅瀬で活動するので産卵の時期に放流することによって、結果的にブラックバスの削減が図られると思う。</p>
会長	<p>伊豆沼で外来生物の駆除を行っている。ブラックバスによって在来種が減った。もしコイやフナがブラックバスの卵を食べるのであれば、増えなかったと思うが、コイやフナがいてもブラックバスは増えている状況である。卵の段階の駆除は重要で、これは伊豆沼では功を奏しているが、平筒沼では水深の関係で稚魚や卵の駆除は難しい状況にある。成魚を駆除する方法が今のところ現実的であると考えている。</p>
委員	<p>ごみの排出量について、リサイクルできるものはリサイクルすることでゴミを減らすことになるが、実際リサイクル率は登米市の場合は25.1%のようである。ペットボトルが11%くらいのリサイクルのようであるが、ペットボトルのごみが増加しているようであり、ペットボトルのごみを減らすようにマイボトルを推進していくとか、できるだけ市役所の職員からマイボトルを持参し、ペットボトルを購入しないということで、結果的にごみが減ると思われる。それと公共施設にある程度、浄水器を設置していただければ、マイボトルを持った方が浄水器を利用して、ペットボトルを購入しないような形になるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>ペットボトルのリサイクルについては、リサイクルステーションで月2回、資源ごみ回収の日に集めている。その量が153トンである。これは減少の一途を辿っており、減少している理由として、スーパー等の事業者がポイント制を活用し、行政での回収とは別に、事業者自らにより再資源化が図られていることから、その回収量が減少している。ご提案のあった、マイボトルの持参や浄水器の設置について、それらの取組の推進についてはこれまで行ってきませんでした。マイバック運動などとともに、マイカップの持参を併せて推進していければ、ペットボトルの減少が図られると思うので、そのような取組も加えていけたらと考えている。</p>
委員	<p>ごみの再資源化について、プラの再処理方法は登米市ではあまりされていないと思われるが、全国的にも少ないといわれている。石巻の事業所でプラを再処理して、子供用のブロックを作ったということを新聞で読んだが、このような活用ができれば、リサイクル率が進むのではないかと思われる。</p>
事務局	<p>プラスチックの回収、再生について、登米市では、プラスチック製ボトル容器、プラスチック製キャップをリサイクルステーションで回収して、容器包装リサイクル協会を活用してリサイクルをしている。リサイクルの方法については、熱回収や次のプラスチックに再生活用する流れになっており、市民がどのようになっているか、なかなか目に見えていない部分になっている。リサイクルの行方についても、いろいろな形で、市民の方々に見えるような方法でお知らせして行きたいと考えている。</p>

委員	平成 31 年度に新クリーンセンターが竣工するが、現在のクリーンセンターが定期的に修繕されているようである。平成 31 年度に新クリーンセンターが竣工するにもかかわらず、定期的な修繕が必要だったのか疑問がある。
事務局	新クリーンセンターについては、平成 31 年 11 月の竣工を見込んでいる。そのために、現在のクリーンセンターを平成 31 年 11 月まで稼働させなければならないので、そのための定期修繕は欠かすことができない部分となる。
委員	生ごみ処理機を購入された方に補助金を交付しているようだが、例えば仙台市の場合、生ごみの処理から肥料が出たものに対して、1kgの肥料と野菜など 100 円の物と物々交換というものがある。登録している事業所に行けば、肥料 1 kgと 100 円相当の野菜がもらえる仕組みである。生ごみ処理機を購入したいと思われるように、このような仕組みを作ったら良いと思う。
事務局	生ごみ処理機の購入補助金については、生ごみ処理機の購入者に上限 3 万円として購入金額の 2 分の 1 の補助を行っている事業である。この補助金については、補助件数も少なく不用額が出ている現状のため、仙台市のような生ごみ処理機を使い易くなるような仕組み作りが必要と思うので、今後検討していきたい。
委員	新クリーンセンターの関係であるが、以前市民会議でクリーンセンターに視察研修を行ったが、その際職員から総事業費約 91 億円との説明があり、その後、議会で約 35%アップの事業費が増額となったが、その後増えてはいないのか。
事務局	約 91 億円は本体の建設工事の金額である。本体の建設工事の変更契約は行っていない。約 35%アップは用地造成工事において、中硬岩の露出による工法変更等により増えたものである。本体の建設工事では変更はなく順調に進捗している。
委員	埋立処分場のシート破損の修繕は終わったのか。以前視察に行ったとき、ちょっと不具合が生じて破損箇所があるとの説明を受けたが、その後どうなったのか。
事務局	今は問題なく使用している。
会長	続いて、「(2)その他」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	第 18 回登米市環境審議会については、平成 31 年 3 月に開催する予定である。会議の内容については、「登米市環境基本計画の実施計画の見直しについて」、「環境報告書について」を予定している。
会長	以上で、本日の議事については終了とする。
【7 閉会】	
副会長	事務局の方から環境基本計画の進捗状況について説明があり、前期としては概ね進捗していると感じた。これから中期に入り、また 3 年間続くと思うので、これがより良い状況になって、みんなが住みやすい登米市になればいいと思う。